

フランス留学 リール政治学院

静岡県立大学 国際関係学部
言語文化学科 4年 英米文化コース

大学3年の秋から大学4年の夏まで、フランスの大学とは別のグランゼコールの1つである、リール政治学院に留学しました。何がきっかけでフランス留学を決意し、フランスでの一年何を勉強し、どのように生活していたのかここで報告させていただきます。

フランス留学を考え始めたのは、留学する10ヶ月ほど前です。それ以前は英語やイギリス文化への興味が大きかったのでイギリス留学を検討していました。しかし、航空業界への就職を目標にしていた私は、英語以外の言語力が就活の際に武器になるであろうと考え、第二言語学習で選択していたフランス語での留学を決意しました。

そして2018年9月、フランス生活がスタートしました。日常生活や風景全てが新鮮で、フランス生活に胸を膨らませる一方で、最初は言語の壁にぶち当たり悩みました。そして到着してから約二週間後、本格的に学校の授業が始まりました。リール政治学院ではフランス語の授業だけでなく、英語での授業も開講していたので、両方受講しました。授業内容はもちろん政治が中心ですが、経済や文化など様々です。英語の授業は、授業の内容をほとんど理解でき、あとはどれだけグループでのディスカッションやプレゼンで自分のスピーキング力を上げられるかが課題でした。その一方でフランス語での授業は、最初は全くついていけず、聞き取れた単語をノートに書いたり、授業後に友達にノートを見せてもらい理解するので精一杯でした。しかし、授業になれるにつれて、聞こえる単語が多くなり、徐々に授業内容も自力で理解できるようになりました。授業の中でも、経済とフランスの現代政治についての勉強が特に面白かったです。政治も経済もしっかりと勉強するのはこの留学が初めてでしたが、自分が興味のあるテーマであると発見できました。政治は実際にマクロン 大統領がどのような政策を取っているのか、現在進行形で学べたことが面白かったです。また私が留学した年は、首相による燃料税引き上げ宣言に対して、gilets jaunesという大規模なデモが長期で起こりました。これは、実際にフランス国民が政治に対してどのように関心を持ち、また現在ヨーロッパで問題視されている民主主義のあり方にも結びつく出来事でした。こうして、プレゼンや学期末の課題に追われているうちにあっという間に、1学期が終わりました。たった4ヶ月だけでも、多くのことを学びました。約一ヶ月の冬休みを挟んで、二学期が始まりました。授業の内容が重いのはもちろんですが、課題も授業前に読んでおかなければならない資料がたくさんあります。前期では、この課題と復習をうまく両立することができなかったのでその失敗を生かし、後期ではより計画的に進められたと思います。ほとんどどの授業でも最低一回はプレゼンがあったので、人前で外国語を話すことにも以前よりはだいぶ慣れたと思います。後期の中で印象的だったことの1つに、学生による環境問題のデモに参加したことが挙げられます。

FACEBOOKを通して学生のデモへの参加が呼びかけられ、実際に数千人もの学生がリールの中心地に集まりました。このデモへの参加がきっかけとなり、私の環境問題への関心が高まり環境への配慮を心がけるようになりました。学期末は、テストを受ける授業もありますがレポート提出の授業が多かったので、後期の終わりはひたすら、文献を集めてレポートを書くことに集中しました。そして一年の中で一番緊張したであろう口頭試験が学期末にありました。私は、政治学を学んだという証明書がもらえるプログラムに申し込んでいたのでこの試験をパスすることが必須でした。くじで引いたお題に対して、1時間でプレゼン内容を作り、そのあと先生方の前で発表し質問に答えるというのは、決して簡単なことではありませんでしたが、なんとか乗り越えることができました。この試験を終えて、あっという間にフランスでの学生生活が終了しました。

平日は学校に通う一方で、夜や週末は友達とフランスでの生活を存分に楽しみました。留学生の友達が多かったので、様々な国籍の人と交流するのはたくさんの刺激を受けることができます。特に私が留学した学校は政治学が専門であったので、政治に関心の高い学生と多く交流し、その学生の意識の高さに、自分の知識不足を痛感しながらも自分ももっと勉強したいという興味を掻き立てられたと思います。ヨーロッパの学生はオンとオフの切り替えがはっきりしているので、夜はお互いにそれぞれの国の料理を作ったり、ドリンクパーティーをしたり、友達と有意義な時間を過ごせたと思います。フランス人の休日の過ごし方は日本とは大きく異なると感じました。基本的に日曜日はほとんどどの店も閉まっています。なので公園で遊ぶ親子が多く見られたり、フランスでは毎月第一日曜日は美術館などの公共施設が無料で開放されるのでそこで芸術作品に触れたり、また街で小さなものから大きなものまでいろんなイベントが開催されているので、多くの人がそういった場所で家族との時間を大切にしていると思いました。これも新たな発見でした。冬休み、春休み、夏休みと割と長めの休みが三回あったので、バカンス中はいろんな国へ出かけました。リールから電車でパリやロンドン、ブリュッセルなど主要な都市に行けますし、パリやブリュッセルの空港にも手軽に行けるので飛行機を利用してヨーロッパを旅行することも簡単でした。ヨーロッパの風景は一見似ているよう見えても国によって違いがあります。その国の人と触れたり、その国の伝統料理を食べたり、旅行するときは毎回何かしらの新しい発見や経験ができます。

こうして勉強と余暇を繰り返すうちにあっという間に一年のフランス留学が終わりました。帰るときには、本当にリールを離れるのが嫌だと思うくらいリールに愛着がありました。この一年で得られたことはたくさんありますが、大きく分けて3つです。語学力の向上、勉強意識の向上、自立です。語学力を上げるのに最適な方法はやはりその言語のネイティブと会話することです。日本で勉強していったフランス語の喋り方やスピードとは全く違います。実際のスピードや発音になれることが重要だと思います。また、フランスの学校で勉強意識の高い学生出合い多くの刺激を受けました。友達と議論するにはやはりある程度の知識が必要であり、自分にはそれがまだまだ足りていないと痛感しました。また自分が興味ある新しい分野を発見できたことも勉強意欲が上がったことの要因です。最後に、私はこの留学が初めての一人暮らしでした。それまで実家暮らしであった私にとって慣れない環境での一人暮らしは戸惑うこともありましたが、いろんな問題を乗り越え、ちょっとしたハプニングでは動じず冷静に解決しようとする力がついたと思います。

リール政治学院に留学できたことは、自分自身を成長させ、さまざまな人や文化に触れる多くのチャンスを与えてくれたともいます。そしてもっとフランス語力を向上させ、将来はフランスと日本を結ぶような職業に就きたいという新たな目標ができました。この留学での経験を生かし、自分の目標に向かってまた精進します。